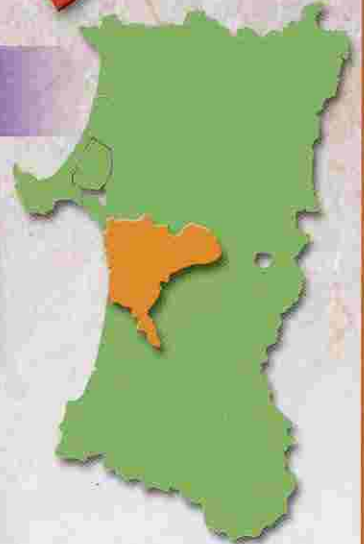




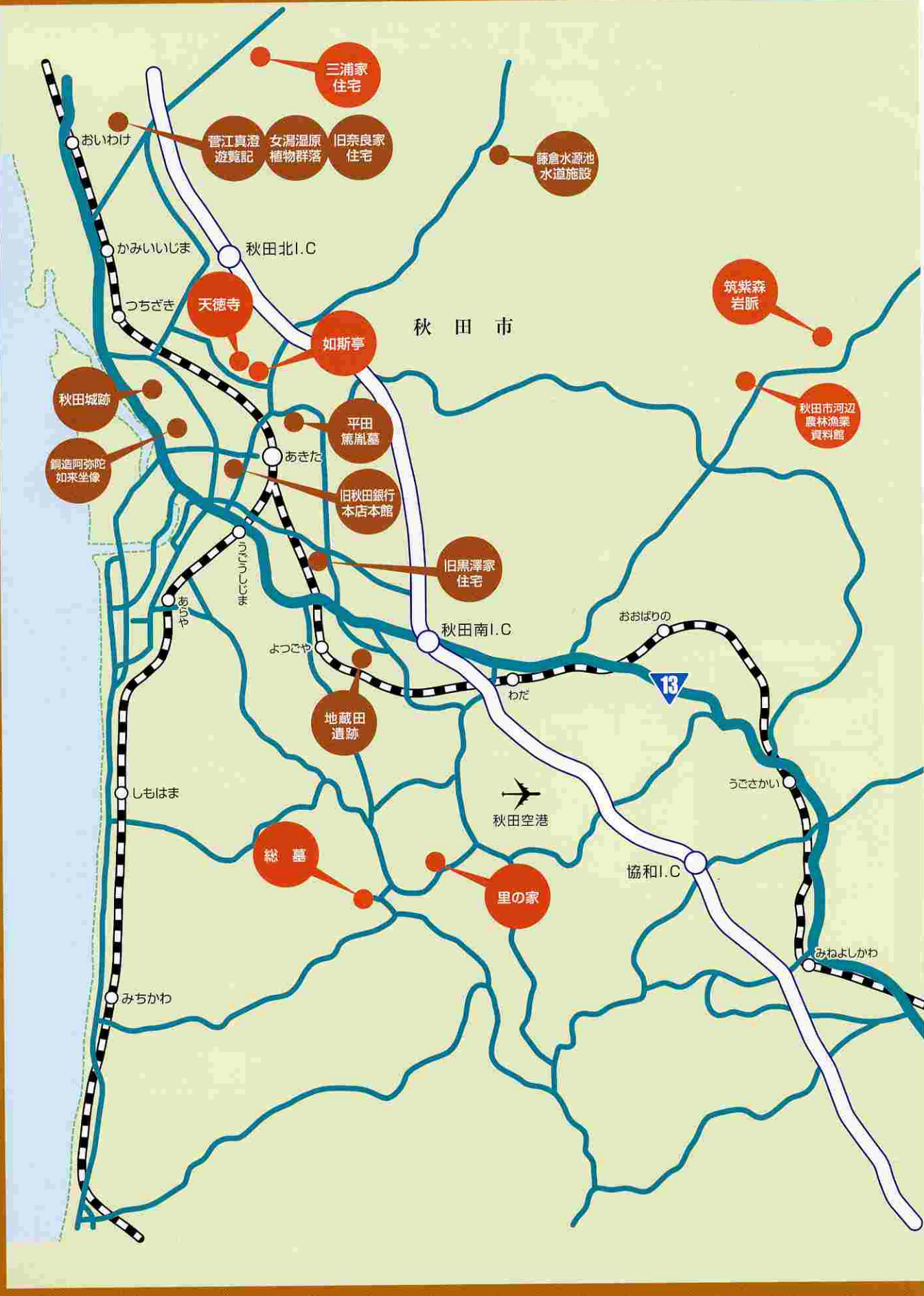
秋田はまるごと博物館

文化財探訪ツアー

秋田稔りと信仰の里コース



- 三浦家住宅
- ↓
- 天徳寺
- ↓
- 如斯亭
- ↓
- 里の家
- ↓
- 総墓
- ↓
- 筑紫森岩脈
- ↓
- 秋田市河辺
農林漁業資料館



三浦家住宅

菅江真澄
遊覧記

女湯温泉
植物群落

旧奈良家
住宅

藤倉水源池
水道施設

筑紫森
岩脈

秋田市河辺
農林漁業
資料館

秋 田 市

天徳寺

如斯亭

秋田城跡

平田
篤胤墓

銅造阿弥陀
如来坐像

旧秋田銀行
本店本館

旧黒澤家
住宅

あきた

秋田南I.C.

おおぼりの

13

よつごや

地藏田
遺跡

秋田空港

うごさかい

総 墓

里の家

協和I.C.

みねよしかわ

しもはま

みちかわ

おいわけ

かみいしじま

つちざき

あきた

あやひの

あや

しほ

あき

あき

あき

あき

あき

あき

あき

秋田稔りと 信仰の里 コース

三浦家住宅

天徳寺

如斯亭

里の家
(旧大宮家住宅)

総墓

筑紫森岩脈

秋田市河辺
農林漁業資料館

三浦家住宅

【秋田市指定有形文化財】

三浦家は中世の豪族三浦氏を祖とし、藩政期は肝煎をつとめた豪農です。住宅は、秋田市東北部の金足黒川地区に所在し、集落のほぼ中央部、中世城館「黒川跡」跡の高台にあります。三浦家住宅の中心である主屋は、文久元(1861)年に建てられました。木造茅葺、平家建て、建物の両端を前面に突き出すこの地方独特の両中門造とよばれる形式です。江戸時代末期の農家としては東北地方で最大級の建物です。



天徳寺

【国重要文化財・県史跡】

天徳寺は山号を万固山と称し、曹洞宗に属する、秋田藩主佐竹氏の菩提寺です。最初は佐竹家当主が夫人を弔うために常陸国太田に創建しました。その後佐竹氏の国替に伴い金照寺山に建てられましたが焼失し現在地に再建されました。霊屋には歴代藩主とその夫人の霊牌が並んでいます。本堂・書院・山門・総門は国重要文化財です。



如斯亭

【県史跡】

如斯亭は、現在、建物とこれをめぐる庭園を指す名称として使われています。三代藩主義処の時に藩士大島氏が別荘を建て得月亭と呼び、五代義隆の時に藩に献上されました。九代義和の時に回遊式庭園ができあがり、如斯亭と改めました。遠州流の庭として県内に残る唯一の大名庭園です。



里の家(旧大宮家住宅)主屋

【登録有形文化財】

里の家は、旧雄和町銅屋地区の肝煎をつとめた大宮家の住宅です。明治15(1882)年の大火の後、明治17(1884)年頃に再建され、昭和62(1987)年に現在地に移築、復元されました。建物は、木造茅葺、平家建、寄棟造の大型の農家建築で、建物の正面右側に馬屋が突き出る中門造です。出入り口の上に繊細な格子をはめた椽窓があり、その上に曲面を上下に重ねた破風が特徴的です。



総墓

【秋田市指定史跡】

総墓は、大小数百の自然石を数段に積み上げた伊藤善左衛門一族一門の墓です。伊藤家は加賀国の落武者で相川地域を開墾後、水沢に定住したと伝えています。墓誌表面に「総墓」、裏面に「文政八乙酉中夏」(1825年)と刻まれています。



筑紫森岩脈

【国天然記念物】

この岩脈は、旧河辺町三内の標高391mの烏帽子のような形をした筑紫森にあります。幅100~200m、長さ400m前後のほぼ南北にわたって、流紋岩からなる柱状節理、板状節理の大岩脈が見られます。これらの節理は、火山岩が冷却し固まる時にできる柱状と板状の割れ目です。節理の断面は、五角形をしています。



秋田市河辺農林漁業資料館

旧河辺町三内字尼沢にある農林漁業関係の資料を中心に集めた資料館です。展示の目玉はドイツ製の発電機とスイス製の水車です。その他、樹齢300年の秋田杉の断面や動物類の剥製、当時の生活をしのばせるランプ・あんどんなどたくさん資料が展示されています。



秋田のおもな文化財

旧秋田銀行本店本館

国重要文化財

秋田市

明治45(1912)年に秋田銀行本店として建築されました。れんが造り三階建て外観はルネサンス様式、内部はバロック様式で、県内に残る明治末期のれんが造り建築として貴重な建物です。

旧黒澤家住宅

国重要文化財

秋田市



黒澤氏は佐竹氏に仕えた上級武士で、代々寺社奉行などの要職を勤めました。住居は久保田城の城下町、現在の秋田市中通にありましたが、昭和63年に一つ森公園に移築されました。武家住宅の屋敷構えを今に伝えています。

藤倉水源地水道施設

国重要文化財

秋田市



秋田市水道部によって明治44(1911)年竣工し、上水道専用の貯水・取水用ダムとして昭和48年まで使用されました。ダムを備えた近代水道施設として全国的にも古いものです。

旧奈良家住宅

国重要文化財

秋田市

奈良家は、県内屈指の豪農で、現在の建物は九代目が宝暦年間(1751~1763)に建てたものと伝えられています。建物は両端を前面に突き出す両中門造です。現在秋田県立博物館の分館として公開されています。

銅造阿弥陀如来坐像

国重要文化財

秋田市



秋田県でただ一つの重要文化財指定の彫刻です。坐高で四尺に達する大型の金銅仏は、全国的にも類例が少なく、平安時代後期作と考えられています。ゆったりとした姿やなめらかな衣文、おだやかで上品な表情が特徴です。

菅江真澄遊覧記(明徳館献納自筆本)

国重要文化財

秋田市



菅江真澄は三河国(愛知県)に生まれた紀行家です。この遊覧記は、1783年に故郷を出て、1829年に秋田領内で没するまで各地を歩いて残した、日記や記録で、江戸時代やそれ以前の各地の自然・文化などを知る貴重な資料です。

秋田城跡

国史跡

秋田市

高清水の丘陵に置かれた奈良・平安時代の城柵官衙遺跡です。出羽国北部と蝦夷地経営の目的で、陸奥国(宮城県)の多賀城とともに東北地方の政治・軍事の中心として、10世紀頃まで機能しました。

平田篤胤墓

国史跡

秋田市



平田篤胤は国学四大人の一人です。久保田に生まれ江戸に出て国学を志し、『古史伝』など多数の著書を選しました。

地藏田遺跡

国史跡

秋田市



御所野台地の南西部にある旧石器時代、縄文時代、弥生時代の遺跡です。特に木柵で囲まれた弥生時代前期の集落跡とその南東側の墓域などがセットで発見された遺跡は全国的にも類例がなく貴重なものです。

女潟湿原植物群落

県天然記念物

秋田市

県立小泉瀧公園のなかにある大規模な低層湿原です。丘陵と砂丘に囲まれた湖沼として縄文時代に成立したと考えられています。湿原特有の多くの生物が生息し、学術的にも貴重な植物などが確認されています。

絹本著色千山万水図(渡邊崋山筆)

国重要文化財

秋田市



江戸時代の政治家・画家である渡邊崋山によって天保2(1841)年に描かれました。西洋美術の画法を取り入れ、色彩の濃淡をつかい、山々の立体感、遠近感をだそうとしています。

秋田万歳

県無形民俗文化財

秋田市

万歳は、太夫と才蔵が正月に訪問先の家をたたえ、家族の長寿を祝う祝福芸です。祝詞万歳、囃子万歳、囃万歳で構成されています。